

津島南コミュニティ 依頼原稿より

南小を「私たちの大切な まちの学校に」



4月のはじめての職員会議で、先生方にこんなことをお願いしました。南小を子どもたちにとって「毎日通いたくなる学校」に、保護者の方にとって「毎日通わせたいくなる学校」に、教職員にとって「毎日勤めたいくなる学校」に、そして地域の方にとって「私たちの大切なまちの学校」にしていきたいとお願いしました。南小は地域とのかかわりを強くもつ学校です。今年度からかかわりを大切にしたいと、地域に向かってホームページや学校だよりを通して学校情報の発信をしていきたいと考えています。どうか皆さんも津島南小学校のホームページや学校だよりに関心を寄せていただきますようお願いいたします。

この4月から津島市立南小学校の校長となりました浅井厚視（あさい あつし）と申します。津島生まれの津島育ち。小学校は西小でしたが、天王中の卒業生です。昭和54年10月に教育実習を津島南小で行い、その時の感動をもとに教師になろうと決意しました。私にとって南小は立志の学校です。趣味は地域の歴史を調べることに。特に寺子屋と明治の初めの義校を追いかけています。旅行に行くこと、旅行先のラーメンと餃子を食することが大好きです。

『愛される学校づくり研究会』依頼原稿より

授業のある風景 『授業に未練あり』

恥ずかしい話。教師になりたての頃から、授業を上手に行うことができませんでした。「授業のカンどころ」が悪いというか、みすみす大切な教師の出る場面を逃し、後悔と反省の多い授業を積み重ねました。それなのに、それだから、定年まであと五年となっても授業が上手になりたいと思います。教師の最大のパフォーマンスは授業であると固く信じています。「授業に未練あり」そんな私の独り言をお聞きください。

この何年間、教育委員会と学校とを行ったり来たりしました。その間に多くの授業を見せていただきました。「授業に未練あり」の私ですから、「自分ならこの授業をどのように行うだろう」という観点で、授業を見せていただきました。

- ① 教材はおもしろいか。この授業のねらいと合致しているか。
- ② 教材提示の仕方、教材との出会わせ方は良かったか。効果的であったか。
- ③ 一番大切な発問は、よく工夫され、子どもたちの思考の変容を促すもので

あったか。授業のねらいと子どもたちの様子に適した発問であったか。

- ④ 子どもたちの発言をしっかり受けとめていたか。教師の「受けとめ」や「出」（うなづき・切り返し・間）で間違いやピント外れの対応はなかったか。
- ⑤ 板書が工夫され、子どもたちの思考の整理や変容を助けるものであったか。
- ⑥ できない、わからない子どもの教師支援は適切であったか。
- ⑦ 本時の学習の振り返り場面を通して、自分にとっての本時の学習の意味づけができていたか。

こんなことを考えながら、2・3点の項目を選んで、授業を見せていただきました。「素晴らしい」と思わず声を出す授業もありました。子どもの発言の受けとめで授業者の人となりや力が出た対応を見ることができました。そんな時授業の事実から学ぶ幸せを感じます。

授業がやりたい私は、出前授業という方法を考えつきました。教育委員会在職中、委員会内のすべての小学校6年生・中学校1年生と『あま市歴史入門』（あま市ものしりジュニア検定）の授業をしました。出前授業は教材の面白さと一時間学習したいと思う発問の切実さにあります。

《教材》

「あま市出土の弥生土器・須恵器（古墳時代）」

スライド（①ヤマトタケルノミコトと萱津②甚目龍麻呂と 甚目寺観音③鎌倉街道の様子④福島正則・蜂須賀小六・豊臣秀次の肖像画⑤甚目寺飛行場跡⑦こまっちゃんと七宝味噌⑧七宝焼を始めた人たち）」に決めました。本物の土器や須恵器にさわることもしました。

《主な発問》

「これは何？弥生土器だよ。では縄文土器とどう違うと思う？」

「これは須恵器といいます。弥生時代の後、古墳時代の焼き物です。見た目どのように違いますか」

「(甚目寺観音の写真を見せて) どうしてこんな立派な観音様を造ったと思いますか」

「(鎌倉街道のイラストを見せて) この道のまわりにある古いものをさがしましょう」

「(飛行場跡の航空写真を見せて) これは何だと思いますか。どうしてこれを造ったと思いますか」

若い先生方にこの授業を見せて社会科の教材づくりの方法（地域素材の教材化）について考えてもらえようにしました。

今年度より学校現場に戻りました。早速、自分の学校と津島市内の小学校で今度は『津島の歴史入門』（津島の達人ジュニア検定）の出前授業をスタートさせました。これからも「授業が上手になりたい」という気持ちにこだわり教職を全うしたいと考えています。